

【vol.74】ハーモニックマイナーとメロディックマイナーを指板上で広く把握するトレーニング～その2～

どうも、大沼です。

前回のハーモニックマイナーに続いて、
メロディックマイナーについてやっていきましょう。

構成音の配置から、ちょっとクセのある弾き方になっていますが、
基本的には、Vol.70～72 でやった動きが元になっています。

前回に引き続き、こちらも譜例が長いので、テキストを印刷してもらえると
練習がやりやすくなるでしょう。

練習の仕方としては、譜例どおりに一気に弾ききってもいいのですが、
まだ各ポジションがスムーズに見えない、と言う場合は、

テキストでやった重要ポジション周辺の前後で区切って練習して、
最終的にそれ繋げていくというのもありですね。

ハーモニックマイナーに比べて、少し強引なポジション移動も
入れているので、インターバルの感覚が手に馴染むように、
じっくりと取り組んでみてください。

それでは、やっていきましょうか。

トレーニングの概要は前回と同じで、メロディックマイナー系のスケールの、重要度の高いものか、もしくは比較的弾きやすいモード・スケールのポジションを繋いで行き、指板上全体で把握する、と、そういう事になります。

前回も少し書きましたが、メロディックマイナー系で主に見ていくスケールは、

- ・ I メロディックマイナー(5、6弦トニックそれぞれのポジション)
- ・ IV リディアント7th(5、6弦トニックそれぞれのポジション)
- ・ VII オルタード・ドミナント(メロディックマイナーの半音下から始めるスケール)

の3種類です。

まずはトレーニングに入る前に、メロディックマイナー系のコードとスケールを、もう一度見ておきましょうか。

※B メロディックマイナースケールのダイアトニックコードとモードスケール

BmM7	B メロディックマイナー
C#m7	C#ドリアン♭2nd
Daug M7	D リディアン#5th(リディアン・オーギュメント)
E7	E リディアン♭7th(リディアン・ドミナント)
F#7	F#ミクソリディアン♭6th
G#m7(♭5)	G# エオリアン♭5 (or ロクリアン♯2)
A#m7(♭5) or A#7(♭5)	A#オルタード・ドミナント

今回は、主に赤字(場合によっては青字も)で示したスケールのポジションを繋ぎ合わせていきます。

青字で示した、**V**ミクソリディアン♭6th、**VI**エオリアン♭5th(**VI** ロクリアン♯2nd)の、両スケールは、過去のテキストではやっていませんが、ものとしてはメロディックマイナーと構成音は同じで、スタートする音を変えたものですね。

構造も名前の通りで、指使い(指板上の音の配置)もそれなりに弾きやすいものなので、ついでに覚えてしまえば、全体が把握しやすくなるでしょう。
(※詳しくは後で解説します。)

もちろん、わかりやすいと感じるものがあれば、色で示した以外のスケールを想定しても構いません。(※どのスケールも、構成音自体は大本の1度のスケールと同じです)

では、これで前段階としての情報は出揃ったので、譜例を見て、各スケールポジションを照らし合わせていきましょう。

譜例2、B メロディックマイナー、指板横断フレーズ

S-Gt

1 2 3

mf

T
A
B

2 4 1 2 4 5 2 4 1 3 4 2 3 5 2 4 2 5 3 2 4 3 1 4 2 5 4 2 1 2 4 5 2 4 1 3 4 6 7 5 7 4 6 7 6 4 7 5

人菜人菜小

4 5 6

T
A
B

7 6 4 3 6 4 7 5 4 7 6 4 6 7 4 5 7 4 6 8 9 6 7 9 7 9 6 7 9 10 9 7 6 9 7 9 7 6 9 8 6 9 7 10 9 7 6 7

人人菜小

7 8 9

T
A
B

9 10 7 9 6 8 9 6 7 9 11 9 11 12 9 10 12 10 9 12 11 9 11 9 12 11 9 8 11 9 11 8 9 11 12 9 11 13 11 12 14 15 12 14 12 15 14 12

人中人菜 人人菜

10 11 12

T
A
B

11 13 11 14 12 11 14 13 11 11 12 14 11 11 12 14 15 12 14 16 14 17 15 14 16 15 13 16 14 17 16 14 13 16 14 16 13 14 16 17 14

13 14 15

mf

T
A
B

13 15 16 18 19 17 19 16 18 19 18 16 19 17 19 18 16 15 18 16 18 16 19 17 16 19 17 16 19 18 16 18 19 16 18 15 16 18 19 17 19 18 16 18 19 21 19 18 21 19

人菜人菜小

16 17

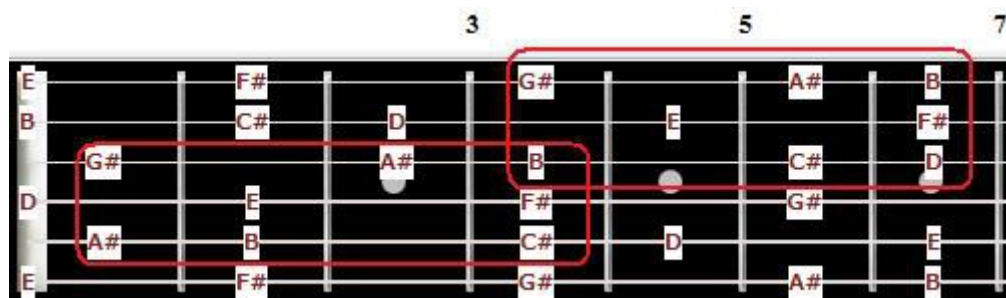
T
A
B

21 19 18 21 20 18 21 19 21 18 20 21 18 19 21 19 21 18 19

※この譜例のポジション移動は、ハーモニックマイナーの物よりもわかりにくいので、指使いに迷いそうな所に指定を付けています。

と、言う事で、使っているポジションと切り替えを個別に見ていきましょう。

まず最初は、前回と同じように、5弦2フレットのB音をトニックにした、メロディックマイナーのポジションが基本です。

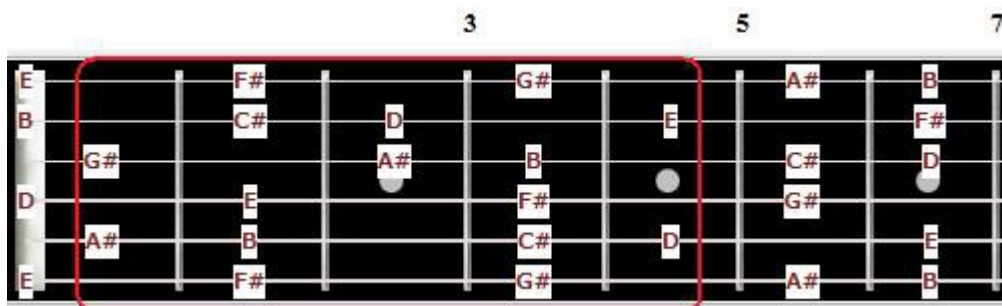


ここをB音から普通に弾けば、Bメロディックマイナーですし、半音下のA#音から弾けば、A#オルタード・ドミナントですね。(※これ以降、A#オルタード・ドミナントについては、Bメロディックマイナーのポジションと見方がほぼ同一なので省略します。)

ですが、フレーズ自体はB音に対して5度の音に当たるF#音から始まっています。

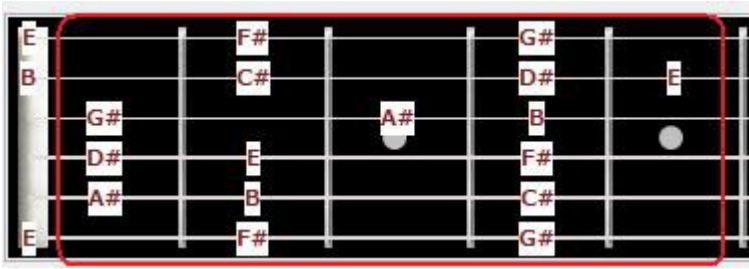
ここは早速、先のメロディックマイナーのモード一覧で青字で表した、F#ミクソリディアン♭6スケールのポジションを使っています。

※F#ミクソリディアン♭6th



このスケールはテキストではやっていませんが、構造は単純で、名前の通り、ミクソリディアンスケールの6度(M6th)を半音下げただけのものです。

※F#ミクソリディアン

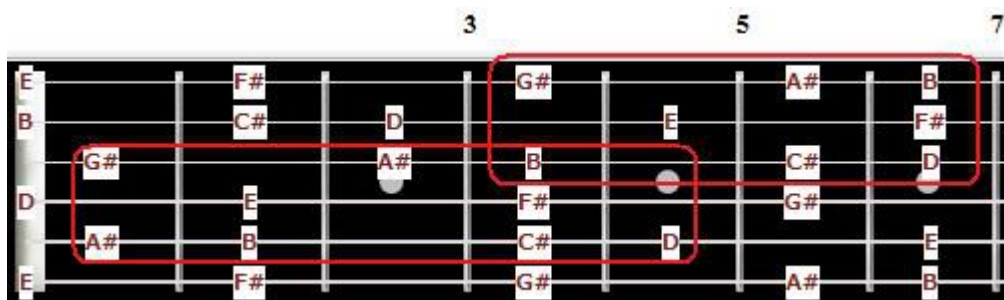


ここについては、ミクソリディアン \flat 6のポジションを新たに覚えても良いですし、単にBメロディックマイナーのB音から、M7th(A#)→M6th(G#)→P5th(F#)と5度まで順番に下がった時の構成音の位置、として捉えても、どちらでも構いません。

これらの事を踏まえた上で、1小節目のフレーズはF#ミクソリディアン \flat 6か、5弦トニックのBメロディックマイナーのポジションを1弦まで降りたものになっています。

その後、1弦4フレットまで降りた所でまた戻っていき、5弦1フレットのA#音まで。

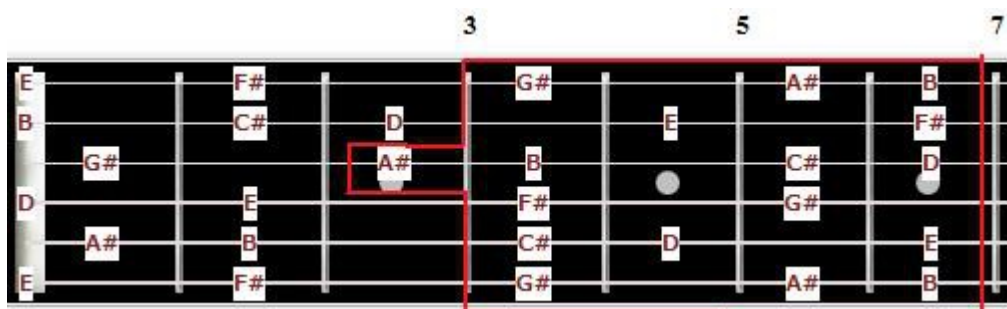
次はそこから、オクターブの位置で移動する、Bメロディックマイナーのポジションを上が行きます。



これで3小節目の終わりの辺りですね。

ここを1弦7フレットまで上がったなら、6弦7フレットのB音をトニックに見た、Bメロディックマイナーのポジションをこの様に見て下がっていきます。

※Bメロディックマイナー=G#エオリアン \flat 5th

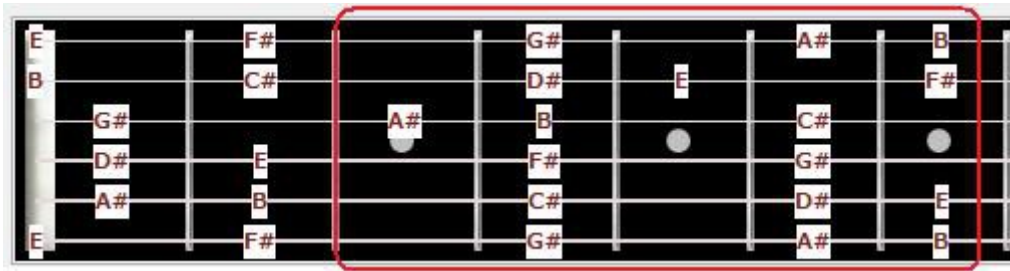


このポジションはG#音をトニックに見ると、G#エオリアン♭5thと言うスケールになるのですが、見方としてはどちらでも構いません。

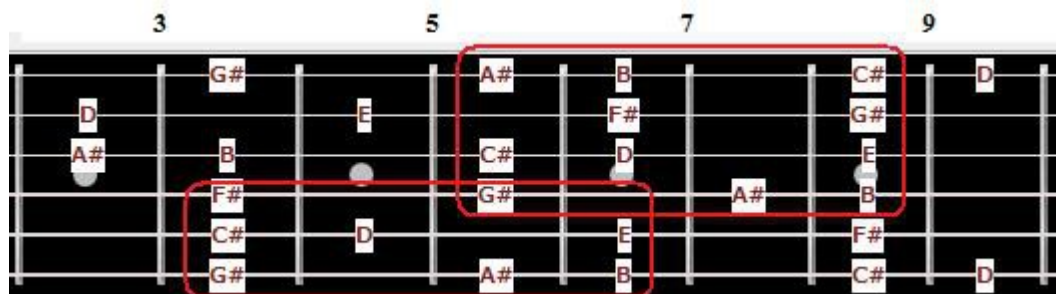
このスケールも、エオリアン(=ナチュラルマイナー)と構成が1音違いですし、左手の指使用的にも弾きやすいポジションなので、覚えておくと便利です。

両者の構成音を見比べてみましょう。(名前の通り、5度の音が半音違います)

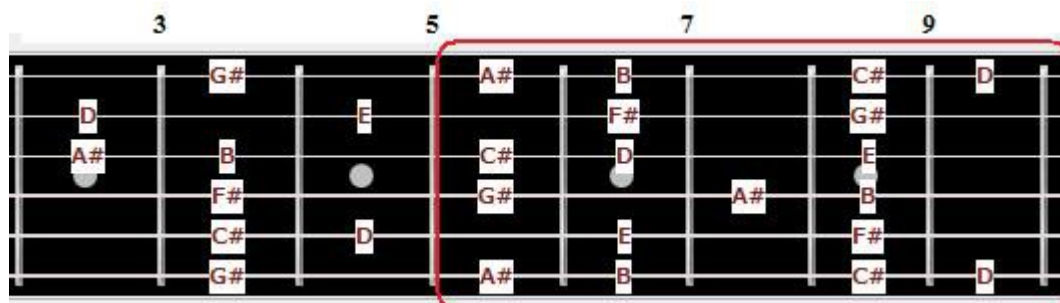
※G#エオリアン(=G#ナチュラルマイナー=Bメジャースケール)



さて、そのBメロディックマイナー=G#エオリアン♭5thのポジションを下がりきった後、再び上昇するのですが、今度は4弦の位置で、以下の様にポジションを切り替えます。



この図の通りに上がって行き、1弦10フレットまで弾いたら、6弦トニックのメロディックマイナー重要ポジションとして覚えたこのポジションに切り替え、再度下がります。



これで6小節目の終わりまでですね。

S-Gt

mf

人薬人薬小

人人薬小

ここを6弦7フレットのトニックであるB音、さらにその半音下のA#まで戻り、また上昇しますが、5弦7フレットE音の場所からは、Eリディアン \flat 7thのポジションとして見て上がって行きます。

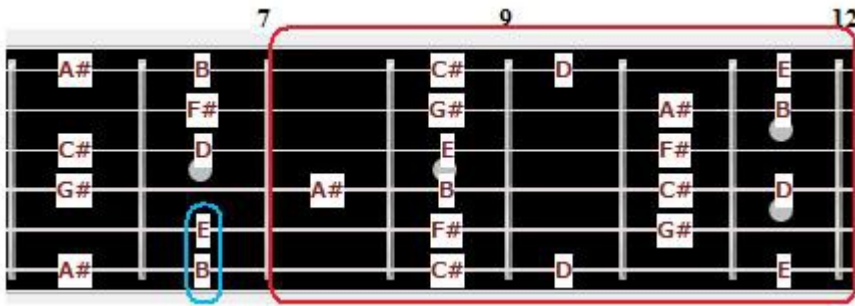
7 9 12

ここを1弦12フレットのE音まで進んだら、ポジションを5弦9フレットF#音をトニックに見た、F#ミクソリディアン \flat 6thに切り替えて下がります。

7 9 12

ここは他にも、6弦12フレットE音をトニックに見たEリディアン \flat 7でも良いですし、6弦9フレットC#音をトニックに見たC#ドリアン \flat 2nd、6弦10フレットD音をトニックに見れば、Dリディアン \sharp 5thのポジションになります。

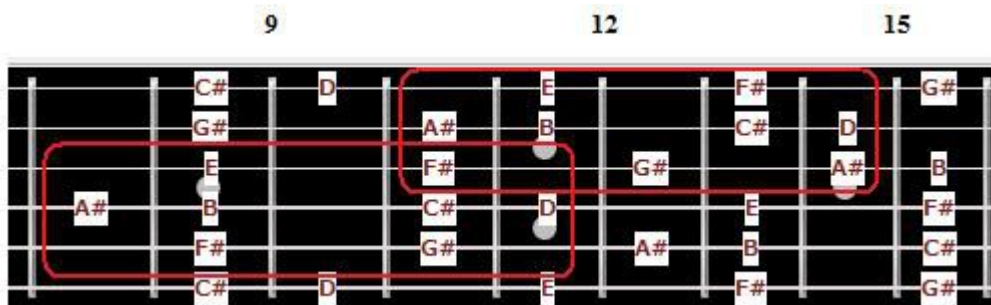
※E リディアン♭7th=C#ドリアン♭2nd=D リディアン#5th



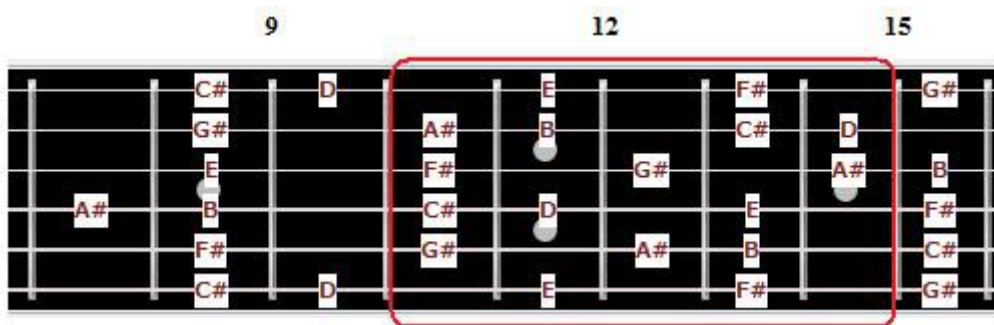
覚えるスケールポジションを増やし過ぎてもわかりにくくなるので、譜例では6弦までは弾いていませんが、このポジション自体は比較的弾きやすいので、ついでに覚えておいても良いかもしれませんね。

赤枠のすぐ隣に、重要スケールとして覚えた、メロディックマイナーとリディアン♭7th (今回はBメロディックマイナーとEリディアン♭7th)のトニックが(青枠)あるので、そこを目印にして見ていくのもあります。

で、この辺りのポジションを5弦のF#音まで下がったら上昇するのですが、次はこの様に見ます。



ここを上昇していくのですが、3弦11フレットF#音に人差し指を移動した時点で、6弦12フレットE音をトニックに見たEリディアン♭7thのポジションを想定します。



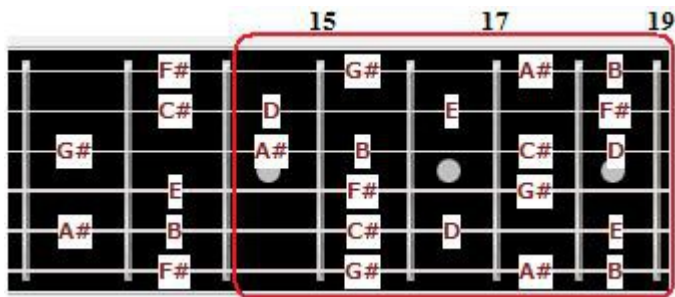
そのまま1弦14フレットまで上がったら、再度このポジションを6弦12フレットのトニックまで下がりていきます。

これで10小節目の半分を過ぎたところですね。

続いてまた同じ形を上昇していきますが、今度は1弦12フレット→14フレットを人差し指で移動し、5弦14フレットB音トニックのBメロディックマイナー、もしくは6弦14フレットF#音トニックのF#ミクソリディアン♭6thのポジションに切り替えます。

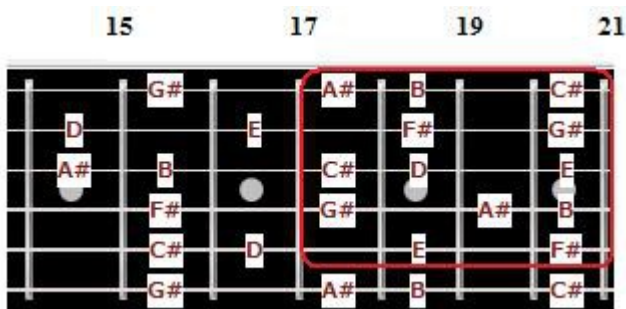
ここを6弦まで下がったら、再度上がって行き、次は5弦14フレットB音トニックのBメロディックマイナーをオクターブで移動するポジションに変化させます。

続いて1弦19フレットまで進んだら、6弦(もしくは1弦でもOK)19フレットB音をトニックに見たBメロディックマイナーか、16フレットG#音をトニックに見たG#エオリアン♭5thのポジションに切り替えます。



この辺りは、最初のローポジションでやっていた事と同じですね。

ここを6弦16フレットG#音まで下がったら、再度上がって行き、1弦16フレット→18フレットを人差し指で移動、5弦19フレットE音をトニックに見たEリディアン♭7thのポジションを下降→上昇して、



最後はBメロディックマイナーのトニックであるB音(1弦19フレット)で終了です。

人薬人薬小

と、言う事でハーモニックマイナーに続き、メロディックマイナーを指板全体で弾くトレーニングでした。

メロディックマイナーの方が、ギターで弾くと、若干、インターバルにクセがあるので、ポジションを移動させる箇所に悩みます。(※ハーモニックマイナーの方は、m6thとM7thの位置感覚さえ掴めば、意外と早く手に馴染むような気がします)

左手のストレッチを取り入れれば、他にも色々なところでポジション切り替えが出来る(と言うかどこでも出来る)のですが、ストレッチを取り入れると、3ノート・パー・ストリングの練習と被ってくるので、この様にしています。

こちらのメロディックマイナーの方も、最終的には、ナチュラルマイナー(チャーチモード)と自由に切り替えられる様になるのが目的です。

なので、BメロディックマイナーやEリディアント7thなどの重要なポジション周辺で、Bナチュラルマイナー系のポジションとは、どのように変化しているのか？を確認しておきましょう。

もう少し発展的な見方としては、Bメジャースケール(Bアイオニアン)系のスケールと、Bメロディックマイナーのそれぞれのポジションがどう関係しているのか？、も見れると良いですね。(と言うかこちらの方が、構成音が近いのでわかりやすいかも)

では、今回は以上になります。

次回からメロディックマイナー系のスケールの実戦に入って行きたいと思います。

ありがとうございました。

大沼